

日本建築学会北海道支部 2022年度 通常総会

日時 2022年5月20日(金)
会場 オンライン開催

日本建築学会北海道支部

日本建築学会北海道支部 2022 年度総会議案

I 2021 年度事業報告

本資料に記載される「1. 支部運営の諸会合の開催～10. 建築関連団体との活動」(例年と同様)の事業を行った。

2021 年度は、新型コロナウイルス感染症対策のため積極的にオンラインを活用することにより、予定した事業はほぼ中止することなく実施できた。オンライン開催により遠隔地からの参加を促した事業もあり、支部活動の活性化にとってオンライン技術の活用は有用であった。また、2022 年度建築学会大会(北海道)は、北海道科学大学を会場とした対面とオンラインを併用したハイブリッド開催の形態をとることとした。

1. 支部運営の諸会合の開催

◆ 総会

期日 2021 年 5 月 21 日
会場 オンライン
参加者 45名(委任状10通含む)

新型コロナウイルスの影響によりオンライン開催

当支部地域在住正会員 816 名の 30 分の 1、27 名以上の出席により成立。

2020 年度事業報告及び収支決算、ならびに 2021 年度事業計画方針案及び予算案を審議し、異議なく可決承認された。

◆ 支部役員会

5 回開催(通信支部役員会含)

◆ 常任幹事会

5 回開催

◆ 選挙管理委員会

1 回開催

2. 学術系委員会の活動

2. 1 学術委員会(主査:岡崎太一郎, 委員数:13名, 委員会開催数:4回)

本委員会では、本部学術推進委員会の情報を伝達するとともに、各専門委員会および特定課題研究委員会から活動報告を受けた。支部研究発表会実行委員会、建築文化週間事業企画と道内工業高校巡回講演会への講師派遣に関して、審議を経て承認し、来年度の特定課題研究に関して、審議を経て推薦した。北海道支部技術賞を募集し、本委員会を母体とする技術賞選考委員会を設置し、表彰技術候補を選考した。本年は、新型コロナ感染拡大防止のために、委員会を全てオンライン開催とせざるを得なかった。困難な状況の中、やむなく中止した事業もあったが、万全な感染防止方策を施して実施した事業もあった。各活動の詳細は以下の通りである。

(1) 研究補助金

- ・特定課題研究委員会
農漁村地域づくり研究委員会「北海道の農漁村地域づくり計画の構築に関する研究」
主査:柳田 良造 君 2020-2021 (継続)
- ・特定課題研究委員会
歴史意匠専門委員会「三笠市の炭鉱遺産群の現況調査, 及び建築史的研究」
主査:武田 明純 君 2021-2022 (新規)

(2)北海道支部技術賞選考部会

2021年度支部技術賞は、下記2件の応募（応募順・技術名のみ記載）があった。

① 積雪寒冷地における『ZEB』を実現する太陽光パネルの設置の工夫～ダイダン北海道支店エネフィス北海道～

② 森から考える建築～エゾマツを使用した新たな在来軸組工法と室内気候の計画～

上記の応募について、「地域性・独自性」、「有効性・新規性」、「継承性・継続性」の3つの観点に基づいて、表彰候補技術として1件を選定した（選定理由は支部技術賞の項目を参照）。

表彰技術名一森から考える建築～エゾマツを使用した新たな在来軸組工法と室内気候の計画～

(3)建築文化週間事業

2021年度事業として、歴史意匠専門委員会による「小樽再発見」と都市防災専門委員会による「くしろ防災屋台村」を企画したが、コロナ感染拡大防止のために、「くしろ防災屋台村」やむなく中止した。

(4)支部研究発表会 技術パネル展

2021年度の支部研究発表会（会場：釧路工業高等専門学校）を、オンライン方式で実施したことともなっていて、技術パネル展は開催しなかった。

(5)支部公式ウェブサイトのシステム・コンテンツ更新

総会終了後、各専門委員会を構成する委員の名簿ならびに活動計画の情報を更新した。

(6)道内工業高校 巡回講演会への講師派遣

・留萌高等学校電気・建築科に、建築計画専門委員会 石橋 達勇 君（北海学園大学）を派遣し、講演「建築計画（学）とは何か」（2022年2月25日）を実施した。参加者33名。

・室蘭工業高等学校建築科に、歴史意匠専門委員会 水野 信太郎 君（元北翔大学）を派遣し、講演「建築作品に求められる意匠と歴史性：美しく老いる仕上材料には何があるのか」（2022年3月18日）を予定していたがコロナ感染拡大防止のため中止となった。

<今後の予定：担当専門委員会>

- ・2022年度：構造専門委員会，建築計画専門委員会
- ・2023年度：都市計画専門委員会，環境工学専門委員会
- ・2024年度：材料施工専門委員会，北方系住宅専門委員会
- ・2025年度：歴史意匠専門委員会，建築計画専門委員会

2. 2 専門委員会の活動

◆ 材料施工専門委員会（主査：深瀬 孝之，委員数：22名，委員会開催数：3回）

- 1) 構成委員数：22名
- 2) 委員会開催数：3回（オンライン開催）
- 3) 現場見学会：新型コロナウイルス感染の影響によって中止した。
- 4) 活動内容：材料施工専門委員会やRC工事運営委員会などの報告、建築材料や施工に関する意見交換を行った。

◆ 構造専門委員会（主査：植松 武是，委員数：20名，委員会開催数：0回）

委員会の主な活動は次の通りである。

1. 構成委員数
20名
2. 委員会開催数
コロナウイルスの影響により中止。
3. 幹事会
メールにて実施。
4. 講演会・講習会（1回）
コロナウイルスの影響により中止。
5. 現場見学会（2回）

材料施工専門委員会と都市防災専門委員会と共催で、①北広島ボールパークと、②北海道庁旧

本庁舎（赤れんが庁舎）の改修現場の見学会を企画したが、いずれもコロナウイルスの影響により中止。

6. 勉強会

日本建築学会近畿支部鉄骨構造部会主催の研究会『ブレース接合部設計の要点』を、関東支部鋼構造WG、東海支部構造委員会、中国支部構造委員会と共催して開催した。

◆ 環境工学専門委員会（主査：魚住 昌広，委員数：16名，委員会開催数：3回）

1) 第1～3回委員会（12/10, 1/14, 1/28, zoom開催）において、2022年度AIJ全国大会研究協議会企画案を策定、3/1環境工学本委員会で承認された。

2) 第16回環境工学系・卒業論文発表会（EGGs'21）を3月8日（火）にZoomで開催した（参加者63名、演題30題、発表者44名）。

3) 空気調和・衛生工学会北海道支部オンライン講演会「札幌市北4東6再開発地区エネルギーセンター見学会」（2021/5/20, Zoom）、地区講演会「北海道で培われた自然エネルギー利用技術の歴史～雪利用と地中熱」（2022/1/13, Zoom）の開催を後援した。

◆ 建築計画専門委員会（主査：石橋 達勇，委員数：11名，委員会開催数：4回）

自薦により、2022年度大会にて研究協議会「地方都市の再開発が生む空間の規模と質：その妥当性とリアリティ」を実施することとなった。また、開催に向けた勉強会を委員会時にオンライン方式で開催した（参加者9名）。「札幌市の再開発の現状と課題」と題し、岡本浩一氏（北海学園大学）が都市計画的視点から、森傑委員（北海道大学大学院）が建築計画的視点から各々講演を行い、質疑応答も経て委員会内での知見の蓄積を行った。

◆ 都市計画専門委員会（主査：森 朋子，委員数：14名，委員会開催数：6回）

1) 構成委員数：14名

2) 委員会等開催数：6回（委員会：4回、公開研究会：2回）

3) 構成委員等：構成は民間6名、行政5名、学術3名である。

4) 活動の内容：委員会を奇数月（5,7,9,11）第3火曜日の18-19時に合計4回オンライン形式にて開催し、公開研究会を2回開催した。委員会では、「カーボンニュートラル」と「札幌都心部地下NW」をテーマに、第3回委員会では日本大学大沢教授より、第4回委員会では北海道開発局の林委員からの話題提供を基に議論した。公開研究会においては外部講師を交え、「胆振東部地震の復興」と「札幌の都心部における地下歩行ネットワーク」（3月14日）について、オンライン形式にて開催した。参加者20名

◆ 歴史意匠専門委員会（主査：武田 明純，委員数：18名，委員会開催数：4回）

道内各地域の歴史的建造物の現状を把握することに努め、保存・活用等に関して委員相互の情報交換を行い、必要に応じて学会として社会や住民に貢献する体制を整え活動した。具体的には、建築文化週間事業「小樽の建築 魅力再発見」（10/16、参加者29名）を開催した。その他、三笠市からの委託研究や特定課題研究の一環として三笠市の炭鉱遺構群の現況調査を行った。

◆ 北方系住宅専門委員会（主査：真境名達哉，委員数：11名，委員会開催数：2回）

本年度より委員長の交代のため、運営方法等を確認しながらの委員会となる。対面ではなくZoomで開催した。委員会内容は具体的に(1)委員各々より話題提供および複数年取り組むテーマなどの確認、(2)2021年および2022年はサンルーム付き公営住宅の調査研究を行っており、本年は全道の実態調査を行った。なお、例年開催の住宅見学会はコロナ禍のため開催することができなかった。

◆ 都市防災専門委員会（主査：竹内 慎一，委員数：16名，委員会開催数：0回， 通信委員会開催数：5回）

新型コロナの感染防止のため今年度は対面での委員会の開催を見送り、その代わりとしてメールによる報告および審議等を行った。2021年10月に予定していた建築文化週間事業「くしろ防災屋台村」について、同じく新型コロナの影響により北海道釧路総合振興局において中止が決定

されたため、実施を見送ることとなった。文化週間事業の代替案として、胆振管内の鶴川中学校における防災授業「新しい津波ハザードマップによる DIG 学習」に協力した。

2. 3 特定課題研究委員会の実施

(2020 年度より)

◆ 農漁村地域づくり研究委員会(主査：柳田 良造, 委員数：8名, 委員会開催数：3回)

北海道の農漁村地域づくり研究委員会の第2年度は、昨年の研究会で議論した地区の現地調査を中心に行う予定であったが、コロナ禍の影響を受け、予定通りには行かなかった。3回行った研究会の第1回は現地調査で、10月末の実施になったが、東神楽町志比内地区での小学校の山村留学を核にコミュニティ施設も一体となった地域づくりの視察と旭川市西神楽地区で20年来年続く地域づくりへのヒヤリングを行い、興味深い成果を得ることができた。現地調査は結局この回のみとなり、研究会は地域づくりの事例について報告をもとに議論する形式に戻り、第2回は北海道開発技術センターで農村地域の除雪ボランティアの取り組みを元に地域づくりの実践を行なっているゲストを招いての研究会となった。元々文化人類学分野の研究者であり、地域と地域課題への眼差しが建築分野とは大いに異なるアプローチからの話題提供であり、質疑と議論が盛り上がった。第3回は2年間の研究会のまとめとして、北海道の農山漁村地域づくりの方向を戦後の我が国での農山村の地域づくりの流れのレビューから考察する報告がまずあった。その中で北海道での取り組みが全国レベルで見ても特筆すべきものを時代ごとに展開していることを再発見するとともに、最後に今後の農山村の地域づくりを考えるモデルとして地域づくりの7つの計画課題、考え方が示され、議論が行われた。

2. 4 本部からの支部助成金による研究委員会の実施

(2021 年度より)

◆ 三笠市炭鉱遺構群調査研究委員会(主査：武田 明純, 委員数：6名, 委員会開催数：4回)

2021年9月19～20日の日程で幌内炭鉱の選炭機の遺構の実測調査を行い、3基のコンクリート構造物とその周辺のコンクリート造の基礎などの配置や形状に関するデータを取得した。また、ドローンなどを用いて、これらの構造物の航空写真やそれぞれの建築写真の作成を行った。この結果に基づき、遺存する構造物や基礎の復元的考察を行い、これらの遺構が選炭機の前炭篩分室や水選機室の一部であったことを明らかにした。また、2021年11月28日と2021年12月18日に北海道博物館で資料調査を行い、幌内炭鉱の沿革の補完を行った。

3. 委託調査研究の受託

契約年月日	委託調査研究名	担当委員会(代表者)	委託者
2021.8.3	令和三年度三笠市炭鉱遺産調査及び図面調査業務委託研究	歴史意匠専門委員会 (主査 武田 明純)	三笠市

4. 支部研究発表会の実施(主査：植松 武是, 実行委員会委員数：21名, 委員会開催数5回)

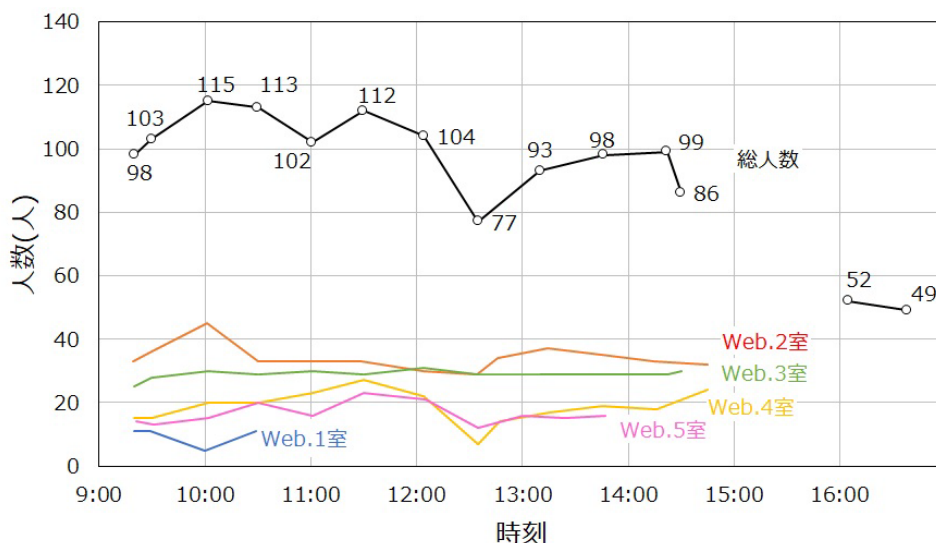
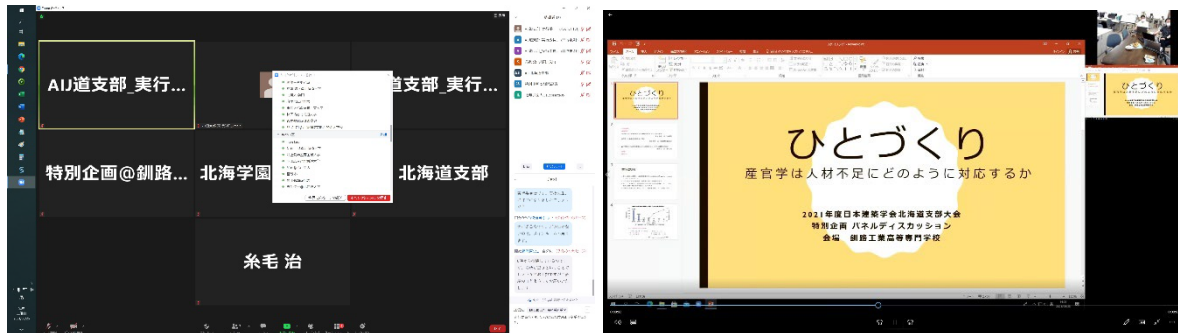
開催要領

日本建築学会北海道支部 第94回研究発表会

日 時：2021年6月26日(土), 09:00～16:30

ホスト会場：釧路工業高等専門学校(釧路市大楽毛西2丁目)

参加者数：常時100名前後



実行委員会委員

主査：植松武是（北海道学園大学）

幹事：千葉忠弘（釧路工業高等専門学校），西澤岳夫（釧路工業高等専門学校），
岡崎太一郎（北海道大学），千葉隆弘（北海道科学大学）

委員：

構造専門委員会 / 鈴木邦康（釧路工業高等専門学校），高瀬裕也（室蘭工業大学）
材料施工専門委員会 / 三森敏司（釧路工業高等専門学校），足立裕介（北海道学園大学）
環境工学専門委員会 / 栗原浩平（釧路工業高等専門学校），小柳秀光（北海道学園大学）
建築計画専門委員会 / 真境名達哉（室蘭工業大学），福田奈々（北海道科学大学）
都市計画専門委員会 / 岡本浩一（北海道学園大学），森朋子（札幌市立大学）
歴史意匠専門委員会 / 金子晋也（札幌市立大学），西澤兵夫（釧路工業高等専門学校）
都市防災専門委員会 / 高井伸雄（北海道大学），森松信雄（北総研）
北方系住宅専門委員会 / 真境名達哉（室蘭工業大学），佐々木優二（北総研）

実行委員会開催スケジュール

2020年12月末：建築雑誌会告入稿

2021年1月：建築雑誌会告

2021年2月～3月上旬：実行委員会（メール審議，論文投稿用HP作成）

2021年3月13日：論文募集開始

2021年4月15日：論文投稿締切

2020年4月下旬～5月：実行委員会（プログラム編成，メール審議）

2021年5月：プログラム校正

2021年6月中旬：CD発送

研究発表会

論文題数：113編（A原稿：88編，B原稿：18編，C原稿：6編，D原稿：1編）

優秀講演奨励賞

- 材料施工/防火部門 : 福田悠人 (室蘭工業大学大学院)
構造部門 : 山田太蔵 (室蘭工業大学)
Somarriba Martin (北海道大学)
環境工学部門 : 川崎 嵩 (北海道大学)
松原維子 (北海道大学)
計画部門 : 茂田和樹 (室蘭工業大学大学院工学研究科 博士前期課程)
磯和耕太郎 (北海道大学大学院)
歴史・意匠部門 : 橋場太一 (室蘭工業大学)

特別企画

「ひとつづくり (産官学は人材不足にどのようにたいおうするか)」

パネラー: 青木利規 (白糠町職員), 赤石隆哲 (赤石建設, 釧路建設業協会), 那須守 (北海道若者活動プロジェクト推進協議会, 室工大),

司会: 千葉忠弘 (釧路高専)

副司会: 西澤兵夫 (釧路高専)

記録: 平澤由之 (釧路高専)

会場: 釧路高専大講義室 (オンライン配信)

企業展示

コロナウィルスの影響により断念。

懇親会

コロナウィルスの影響により断念。

5. 表彰

5. 1 北海道建築賞

(1) 北海道建築賞委員会 (主査: 加藤 誠, 委員 6 名 委員会開催数: 3 回 現地審査: 3 回)

本委員会は 1975 年、北海道支部に報奨制度が設けられて以来、道内に建てられた建築 (アーバン・デザイン等の領域も含む) の中から本賞・奨励賞にふさわしい作品を選考しており、2021 年度で 46 回目となった。選考においては作品の有する「先進性」「規範性」「洗練度」の 3 つの視点を基本的な評価軸としている。本委員会は 7 名で運営しているが、今年度は委員が応募作品に関与した作品があったため、主査判断により当該委員を除いて 6 名による選考を行った。

今年度は 4 月 15 日 (木) の応募開始から 10 月 22 日 (金) の表彰式および受賞記念講演会まで、以下に示す一連の活動を通して第 46 回北海道建築賞を実施した。

4 月 22 日 (木): 第 1 回委員会 審査方法・スケジュール等の確認。

5 月 25 日 (火): 第 2 回委員会 応募 21 作品が審査対象作品となることを確認。書類審査によって現地審査対象作品として 6 作品を選定。

7 月 23 日 (金): 第 1 回現地審査 「mother' s+」 (白老町)、「伊達の家」 (伊達市)

8 月 5 日 (木): 第 2 回現地審査 「北海道大学医学部百年記念館」 (札幌市)

8 月 6 日 (金): 第 3 回現地審査 「0 project」 (札幌市)、「株式会社遠藤建築アトリエ新社屋」 (札幌市)

現地審査対象作品であった「KDDI エボルバ Polaris_Sapporo」 (札幌市) は感染症対策のため応募辞退となった。

8 月 27 日 (金): 第 3 回委員会 現地審査を踏まえて最終選考を行い、以下の結果となった。

- ・北海道建築賞 「北海道大学医学部百年記念館」 (小澤丈夫 / 北海道大学)
- ・北海道建築奨励賞 「伊達の家」 (青木弘司 / 合同会社 AOAA 一級建築士事務所)
- ・北海道建築奨励賞 「株式会社遠藤建築アトリエ新社屋」 (遠藤謙一良 / 株式会社遠藤建築アトリエ)

10 月 22 日 (金): 表彰式・受賞記念講演会、記念パネルディスカッション。北海道大学建築スタ

ジオにて開催。建築文化週間の行事であり、一般市民、学生、大学関係者、建築業界関係者など約 30 人が参加した。

審査員

主 査：加藤 誠

委 員：石塚和彦、植田 暁、河合 有人、齊藤 雅也、佐藤 孝

2021 年度北海道建築賞（第 46 回）の審査結果

今年度の委員会において、応募のあった 21 作品について例年通り「先進性」「規範性」「洗練度」を基本的な評価軸としつつ、書類審査によって選ばれた 6 作品のうち 5 作品の現地審査を経て(1 作品審査辞退)、北海道建築賞として「北海道大学医学部百年記念館」（小澤丈夫／北海道大学）、北海道建築奨励賞として「伊達の家」（青木弘司／合同会社 AOAA 一級建築士事務所）と「株式会社遠藤建築アトリエ新社屋」（遠藤謙一良／株式会社遠藤建築アトリエ）を選定した。

「北海道大学医学部百年記念館」は、道内産木材を用いた汎用的な部材と構法によって大屋根による広がりのある空間がつけられた。公共空間における木材活用の先駆的な作品であり、デザインと構造が統合された完成度の高さが評価された。また、建築周辺との関係を丁寧に計画することで、キャンパス内にシンボリックな場所をつくり出したことも評価された。

「伊達の家」は、外装材と断熱材の間に存在する空気層を拡大した中間領域をつくることで、入れ子状の平断面計画がつけられた。中間領域の温熱環境が不安定なことなどが危惧されていたが、竣工後 2 年ほど経ち、住まい手が楽しんで空間を使いこなしている状況を確認できた。断熱気密を優先した厚い外皮による寒冷地建築の考え方に対して、新たな可能性を提示していることが高く評価された。

「遠藤謙一良アトリエ」は、市街地における 2 階建て自社オフィスにおいて、設計者が追求してきた木材架構、環境技術などの手法が採用された。個別の要素技術を追求するあまり建築デザインとしてのバランスを欠いてるとの指摘もあったが、寒冷地の小規模オフィス空間における意欲的かつ実用的な試みが達成されていることが高く評価された。

第 46 回を迎えた北海道建築賞は、日本建築学会各支部の建築賞の中で最も早くに創設されたものであり、地域性を意識した北海道ならではのものである。長い年月にわたって「北海道の現代建築」を位置付ける機軸を担ってきたことは確かであろう。今後も多くの意欲的な作品が応募されることを期待したい。

5. 2 卒業設計優秀作品（日本建築学会北海道支部賞）

（1）卒業設計優秀作品審査委員会（主査：菅原 秀見，委員数：6 名，委員会開催数：1 回）

2021 年度卒業設計優秀作品審査委員会においては、「大学」「短大・高専・専門学校」「工業高校」の部門別に候補作品各々について合同で審査を行い、合議の上各賞を選出した。今年度は昨年度と同様にデータにて作品の提出を受け、事前に作品を共有したうえで、審査自体は対面で行った。審査に先立って学会の表彰規定における表彰の目的、それに基づく審査の考え方を各審査委員で確認した。

本年度は「大学」の部では金賞を 1 点、銅賞 1 点を選定した。「短大・高専・専門学校」の部では金賞 1 点、銀賞 1 点、銅賞 1 点を「工業高校」の部では金賞 1 点、銀賞 1 点、銅賞 2 点を選出した。審査後、講評の論点を確認し、各選考作品の講評者の担当を決定した。

審査員

主 査：菅原 秀見

委 員：遠藤謙一良，小倉 寛征，小西 彦仁，齊藤 文彦，中山 眞琴

（2）受賞者

◆ 大学の部 （応募作品数：12 点）

- ・金賞 小野 誠治殿：北海道大学工学部環境社会工学科建築都市コース
作品名 — 連情の景—連歌による合律的設計手法の探求—
- ・銅賞 加藤 雅大殿：室蘭工業大学工学部建築社会基盤系学科
作品名 — 隆起した余白

◆ 短大・高専・専門学校の一部 （応募作品数：6点）

- ・金賞 町田 哲平殿：北海道芸術デザイン専門学校建築デザイン学科
作品名 — Diatonic Line
- ・銀賞 下山 雄大殿：釧路工業高等専門学校創造工学科
作品名 — Kushiro C Terminal
高架化とLRTでコンパクトシティに
- ・銅賞 横山 斐巳殿：北海道芸術デザイン専門学校建築デザイン学科
作品名 — 御茶間

◆ 工業高校の一部 （応募作品数：4点）

- ・金賞 長谷川嵩人殿：北海道旭川工業高等学校建築科
作品名 — 書肆
- ・銀賞 伊藤 大智殿：北海道旭川工業高等学校建築科
作品名 — 創造と休息
- ・銅賞 小倉 愛加殿：北海道函館工業高等学校建築科
作品名 — あさひの湯
- ・銅賞 中島 一葉殿：北海道函館工業高等学校建築科
作品名 — 市立函館晴陽保育園

(3) 審査講評

◆大学の部

金賞・小野 誠治殿

建築家の役割とは何か、と考えさせられる意欲作である。現代社会での一義的に決められた価値観を受け入れ身体性が失われているという問題意識を背景とし、一方で多様な価値観のもと空間を多義的に使いこなす人々に着目している。異なる価値や土地の文脈を生かし空間を更新するという手法に「連歌」のプロセスを用いるところが独創的である。地域の空間の更新は現実に行っていることであるが、そこには秩序はなく、人や生活が優先されていないかもしれない。この計画ではルールがアクティビティをベースとしており、生活者である人々の息遣いが感じられる。このプロセスの発見も素晴らしいが、一つのモデルケースとして作品に落とし込んでいる力量も評価できる。また、ここでは建築家の役割は裏方のように、今後、多様化していくであろう建築家の在り方を示唆するものとしても興味深い作品である。

(文責：菅原 秀見)

銅賞・加藤 雅大殿

都市と建築の関係を分解していくと、建築は箱であり、その他は道や広場など面の連続というロジックで建築を再構成したものである。新たな公共空間のあり方や建築との関係性を提案するものであり、そこを利用する人が目的に応じて自由に使えるスペースは、人々により場所や建築を発展させて行くというそんな場所を「まちな余白」と定義している。

緩やかに傾けられた緑の人工地盤は所々が切りとられ建築空間が挿入されている、作者が言う「隆起した余白」の出現である。

図式的には興味深い提案であるが、建築自体の多様性や自由度が望めず、そこに新たな提案が欲しいところではあるが、何れにしても秀作であった。

(文責：小西 彦仁)

◆ 短大・高専・専門学校の一部

金賞・町田 哲平殿

駅舎全体が美しい楽器のような印象的な外観の札幌駅の計画である。

自然の音と風を楽器のような屋根の形状により、駅舎の空間が高低の微細な変化の組合せによって音が重なり、ハーモニーを奏でる環境を計画している。

奏でられる音は各自の想像に委ねられるが、公共空間を心地良い音で包む新鮮な感性は独創的であり、空間全体の快適性を高める提案が重ねられ、表現全体が緻密で美しい絵画のようなまとまりがあり、金賞にふさわしい力作である。

(文責：遠藤 謙一良)

銀賞・下山 雄大殿

美しい屋根のシルエットが印象的な釧路駅の建て替えの計画である。造形的な特徴だけではなく、平面図からは丁寧な事例調査や建築計画がなされたことが読み取れる。また、駅周辺の分析と計画をおこなうなど、都市計画的な視点も含めた提案であることが高く評価された。さらに、JR の高架化、LRT の路線検討など釧路市広域での交通ネットワークの提案まで行うなど、釧路の明るい未来が見えて来そうな提案である。これら多岐にわたる提案を CG により分かりやすいプレゼンテーションにまとめあげている。以上の点より、銀賞がふさわしいと判断しました。

(文責：小倉 寛征)

銅賞・横山 斐巳殿

高架下の有効活用を提案した作品である。現状では拠点施設がなく単なる通過点としての駅を、地域住民の属性や求められる機能を分析したうえで、コミュニティ形成の場として再生している。街区構成から延長されたグリッド、適度なスケール感などから、ごく自然に地域住民の居場所として空間が出現している。もう少し密度を抑え可変性を予感させたほうが良かったかもしれないが、まちづくりの視点を持ち、丹念に描かれたプレゼンテーションなど、作者の強い思いが込められている力作として評価した。

(文責：菅原 秀見)

◆ 工業高校の一部

金賞・長谷川嵩人殿

旭川に建つ本屋・雑貨・カフェ・画材店が入る 6 階建てのビルディングの設計である。

買い物公園の再建や賑わいを取り戻すべきランドマーク的なデザインは本を重ねたような形態をしており非常に分かりやすい。

重ね方やずらし方はなかなかのセンスを感じられ、書架や余白と平面計画は非常に心地良い。

ハリーポッターからインスピレーションを受けたと書いてあったが、その SF ファンタジー的な立体感も光るものを感じられた。

少し提言をするならば 1 階ファサードが閉鎖的で人を引き込む開口部に工夫が欲しかった事と、別に各層が本に擬似化しなくても良くて

そのデフォルメがリアリティさに近似化されたのが残念であった。

ただ、総合的に総評するならば文句なし「金」の称号が与えられるべき作品として心に残る。今後の活躍を期待する。

(文責：中山 真琴)

銀賞・伊藤 大智殿

旭川買物公園はかつて賑わいをみせ楽しい通りであったが、駅から離れるにつけ昨今は商業施設が歯抜け状に姿を消し空地や駐車場となっている。

そんな状況を解消すべく、買物公園のほぼ中間の位置に新しいスタイルの図書館の計画である。ここでは心と身体を図書やデジタルアートを通じ癒しまたは楽しむことができる。螺旋状に計画された空間は上昇に伴い様々な場所が設定されており、その日のコンディションにより居場所を変えることができ、多くの人々が利用するであろうと想像できる秀作であった。

(文責：小西 彦仁)

銅賞・小倉 愛加殿

地域に親しまれる温浴施設の計画。円弧上に露天風呂、浴室、脱衣室を並べ、男女別にずらして配置させることで外観に特徴を出している。中央の吹抜けが印象的で、多くの人が集えるレストランや休憩室など設計主旨と整合性も取れている。手書きの表現が丁寧で、工業高校の卒業設計として評価できる。よって銅賞を送るものとする。

(文責：斎藤 文彦)

銅賞・中島 一葉殿

積木のように散らばった4つの箱(コア)を、ランチルームやフリースペースといった共有スペースが柔らかく繋ぐ保育園の計画である。この共有スペースが建築に楽しさと明るさを生み出す装置としてとても有効に機能している。また、曲面ガラスによる開放的な外観は、周辺地域に賑わいを生み出すだろう。屋上や外構、遊具まで丁寧にデザインする姿勢には、利用する園児たちへの設計者としての優しさ、細やかな気遣いが読み取れた。以上の点より、銅賞がふさわしいと判断しました。

(文責：小倉 寛征)

5. 3 優秀学生・生徒(日本建築学会北海道支部賞)

2021年度道内大学・短大・高専・工高優秀学生・生徒として以下の学生・生徒を表彰した。

水口 晃輔殿・榊部 泰弘殿：北海道大学工学部環境社会工学科建築都市コース

内野 颯殿・高橋 奈緒殿：北海学園大学工学部建築学科

川端 賢人殿・野切 栞殿：北海道科学大学空間創造学部建築学科

稲見 栞殿・嶺田 袖衣殿：室蘭工業大学工学部建築社会基盤系学科

西崎愛里沙殿・寺井 千暁殿：東海大学国際文化学部デザイン文化学科

齋藤 舞香殿・佐々木灯里殿：星槎道都大学美術学部建築学科

矢田奈々帆殿・八田 京子殿：札幌市立大学デザイン学部デザイン学科

空間人間デザインコース

長江慎太郎殿・飛澤 圭亮殿：釧路工業高等専門学校創造工学科建築デザインコース

建築学分野

村田 優菜殿：北海道職業能力開発大学校建築施工システム技術科

曲澤 桃佳殿：北海道職業能力開発大学校建築科

渡会 菜喜殿：北海道札幌工業高等学校建築科

武田 陸空殿：北海道札幌工業高等学校定時制建築科

山本 雄大殿：北海道小樽未来創造高等学校建設システム科

岩本 心也殿：北海道小樽未来創造高等学校定時制電気・建築科

渡辺 瑛紀殿：北海道函館工業高等学校建築科

伊藤 大智殿：北海道旭川工業高等学校建築科

寺林 翼殿：北海道旭川工業高等学校定時制建築・土木科

早田 健将殿：北海道苫小牧工業高等学校建築科

鈴木 達也殿：北海道苫小牧工業高等学校定時制建築科

山田亜梨珠殿：北海道帯広工業高等学校建築科

乃一 優真殿：北海道釧路工業高等学校建築科

荒井 隆希殿：北海道名寄産業高等学校建築システム科

江良木蒼也殿：北海道室蘭工業高等学校建築科

佐々木 淳殿：北海道留萌高等学校電気・建築科
長塚あかり殿：北海道北見工業高等学校建設科

5. 4 日本建築学会北海道支部功労賞

本賞は、当支部の維持・発展にとって功績・功労のあった支部に所属する会員に対して感謝の意を表するとともに、更なる支部活動の活性化と意識の高揚を図ることを目的としている。

今年度は、最も長期にわたり支部会員を継続された以下の1社の法人会員を表彰した。

・株式会社アトリエアク

5. 5 日本建築学会北海道支部技術賞

(1) 北海道支部技術賞選考委員会（主査：岡崎太一郎，委員数：11名 委員会開催数2回）
選考委員：支部長，学術委員会委員長，学術委員会委員の計11名

(2) 受賞者

◆北海道支部技術賞

表彰技術名 — 森から考える建築～エゾマツを使用した新たな在来軸組工法と室内気候の計画～
株式会社 遠藤建築アトリエ 殿

遠藤謙一良殿 株式会社 遠藤建築アトリエ
安藤 耕作殿 株式会社 ANDO Imagineering Group
齊藤 雅也殿 札幌市立大学

(3) 審査経緯・講評

日本建築学会北海道支部技術賞表彰規定 第7条第2項に基づいて、支部技術賞選考部会を構成する委員を確認し、選考部会を計2回開催した。Covid-19感染拡大防止のために、2回ともオンライン会議とした。

初回の技術賞選考部会では、応募のあった下記2件の内容について協議した。

応募された技術等の名称：(1) 積雪寒冷地における『ZEB』を実現する太陽光パネルの設置の工夫～ダイダン北海道支店エネフィス北海道～，(2) 森から考える建築～エゾマツを使用した新たな在来軸組工法と室内気候の計画～（受付順）

第1回の技術賞選考部会は、募集要領の選考基準に定められる、「地域性・独自性」，「有効性・新規性」，「継承性・継続性」の3つの観点に基づき、技術内容を把握した。応募技術について、技術の独自性または有効性を裏付ける追加情報の提供を依頼することとした。

第2回の技術賞選考部会は、提出のあった追加資料を併せて、技術内容について再度各選考委員が議論したうえ、投票により「森から考える建築～エゾマツを使用した新たな在来軸組工法と室内気候の計画～」を技術賞表彰候補とした。選定理由は、下記の通りである。

流通材でない北海道地産のエゾマツをふんだんに使い、在来軸組工法でHPシェル形状の屋根を特徴とする魅力的な建築空間を実現した技術、その空間形状に合わせて室内気候を計画した技術が示された。前者については、エゾマツの選定から製材まで3年以上携わられた根気、木材の質感を生かした構造計画と建築計画の融合が、特に注目された。後者については、施工後のデータ収集により、計画時のシミュレーション結果の検証や室内環境の実測評価、温冷感の詳細な把握により、有効性を追跡確認する入念さが評価された。カラマツやトドマツの建築分野での利用が注目されている中、一つの建築物を通して、エゾマツのもつ可能性を明示されたことは、構造材として活用可能な北海道の森林資源の多様性を再認識させるものでもあり、地域性と独自性、有効性と新規性に鑑みて、技術賞表彰候補にふさわしいと評価された。

後日、支部役員会において、技術賞選考委員会から技術賞表彰候補として報告し、審議の結果、2021年度日本建築学会北海道支部技術賞に決まった。

（文責 岡崎 太一郎）

6. 北海道建築作品発表会の実施

(1) 北海道建築作品発表会委員会（主査：小澤 丈夫，委員数：5名，実行委員数：14名，委員会開催数：5回）

2021年度は、昨年度に続き、新型コロナウイルスの感染拡大防止のため、道立近代美術館を会場とした対面式開催を断念し、第41回建築作品発表会作品集VOL-41の刊行、並びに、11月20日に北海道大学工学部共用実験棟（建築都市スタジオ棟）において、対面参加人数を30名程度に限定し、ZOOMによるオンライン参加を併用した作品発表会を開催した。一昨年前まで行っていた懇親会は中止とした。

応募総数は28作品であった。発表会の内容について、北海道建築士事務所協会誌「ひろば」2021年12月号に実行委員の内藤誠人委員が執筆した。また、日本建築学会「建築雑誌」2022年2月号に岩澤浩一委員が執筆した。

(2) 北海道建築作品発表会の開催

期日：2021年11月20日（土曜日）13時～

会場：北海道大学工学部共用実験棟（建築都市スタジオ棟）

発表作品：28作品

感染拡大防止のため、吹き抜けをもつ第空間を会場とし、対面参加人数を30名程度に限定し、ZOOMによるオンライン参加を併用した限定的な作品発表会と意見交換会を開催した。2回の休憩を含めた全体を3時間半程度に限った開催だったが、例年通り、多様な作品が発表され、活発な質疑応答が行われた。その後、参加者全員による今後の作品発表会の開催方式や、発表作品のアーカイブ化にむけた方向性と課題について議論を行った。今後、オンラインによる情報発信や資料のデジタル化に向けた手法が益々多様化していく中、本建築作品発表会が、学術の観点から、社会に対していかなる価値と意義をもちえるかを確認し、引き続き開催方式について慎重に検討していく必要性が共有された。

7. 特別委員会

7. 1 事業主査連絡会（事業系5委員会の主査および事業系担当常議員）

事業系5委員会は、本部事業と支部事業の委員会が含まれている中での可能な連携がとられ、活動に関し役員会への報告を行っている。本年度についても建築文化週間として北海道建築賞表彰式と記念講演会が実施され印刷物やHPで公表されている。また、建築作品発表会は作品集の刊行、卒業設計審査委員会からは入選作品のHP掲載がされるなど公表されている。

7. 2 総務委員会（委員長：森 傑，担当常議員、委員会開催数：1回）

経理関連業務としては、支部の毎月の収入・支出内容についての確認、経理執行状況と予算との比較検討、全体の財務管理を行った。収支状況について、四半期に一度の頻度で、常議員会にて報告した。

7. 3 ホームページ管理委員会（主査：森 太郎，幹事：齊藤 雅也，委員数：2名，メール等による情報交換を数回実施）

- 1) 常議員会、事務局等の要請に応じて適宜、ホームページの更新作業を行なった。
- 2) イベント周知，報告等のFacebookページの更新作業を行った。
- 3) 各委員会ページの名簿，活動内容について見直しを行った。

7. 4 北海道支部女性会員の会（建築女子café）（主査：野村 理恵，委員数：13名）

委員会開催数：1回)

支部単独企画として、建築女子 café@オンラインの企画立案を行い、2022年2月28日(月)に実施した。3名より話題提供を行い、16名の参加があった。建築系学科を卒業後の職業について、施工管理、木造構造設計、建築事務所での通訳やパース制作会社といった幅の広い選択肢があることが共有された。また、特に出産や育児といったライフイベントに関わる働き方について、個人事業主や会社員といった立場の違い、仕事の種類、在宅と現場の違いなど多方面から議論した。

8. 講習会・シンポジウム等の開催

8. 1 講習会

- (1) 本部主催講習会
- (2) 支部主催講習会
- (3) 支部委員会主催講習会 (セミナー)

該当なし

8. 2 講演会

- (1) 本部主催講演会

該当なし

- (2) 支部主催講演会等 (新型コロナウイルス感染防止のため中止となった事業も含む)

期 日	名 称	会 場	講 師	参加者数
2021. 11. 20	第41回北海道建築作品発表会 (作品数28点)	北海道大学工学部建築都市スタジオ棟+オンライン		40名 [オンライン45名]
2021. 12. 19	「建築計画学とは？」	北海道留萌高等学校	石橋 達勇	33名
2022. 3. 18	「建築作品に求められる意匠と歴史性美しく老いる仕上材料には何があるのか」	北海道室蘭工業高等学校	水野信太郎	中止

- (3) 支部委員会主催講演会等

期 日	名 称	会 場	講 師	参加者数
2021. 10. 28	公開研究会「胆振東部地震からの復興を考える」(都市計画専門委員会)	オンライン	窪田 亜矢	11名
2021. 11. 5	「新しい津波ハザードマップによるDIG学習」(歴史意匠専門委員会)	鶴川中学校	橋本 雄一 草薙 敏夫 戸松 誠 竹内 慎一	54名
2022. 2. 28	女性会員の会 建築女子カフェ 2022「先輩にきいてみよう！ライフ・ワーク・バランスってなに？」	オンライン	四戸 さき 倉内 菜々 高橋 美雪	16名
2022. 3. 8	第16回環境工学系・卒業論文発表会 EGGs21 (環境工学専門委員会)	オンライン	発表題数33題	63名

2022. 3. 14	公開研究会「札幌の都心における地下歩行ネットワークを考える」(都市計画専門委員会)	オンライン	大沢 昌玄 金田一淳司 内川 亜紀	20名
-------------	---	-------	-------------------------	-----

8. 3 見学会

該当なし

8. 4 展示会

開催日	名 称	会 場	参加者数
2021. 5. 13～ 2022. 3. 31	全国大学・高専卒業設計展示会	室蘭工業大学 北海道大学 釧路工業高等専門学校他	Web 展示会
2021. 6 ～2022. 3	道内工業高校卒業設計優秀作品巡回展	道内工高 11 校	Web展示会

9. 本部関連事業・その他

9. 1 2021 年度支部共通事業設計競技の実施

(1) 支部共通事業設計競技審査委員会（主査：山田 良，委員数：5 名，委員会開催数：1 回）

委員会活動として設計競技審査会を 2021 年 7 月 2 日、午後 1 時よりオンラインにて、5 名の委員全員出席のもと開催した。本年度の設計課題は「まちづくりの核として福祉を考える」であり、10 案の応募があった。5 名の委員全員による活発な議論および審査を経て 3 案を支部入選案として決定した。また、支部入選案のうち坪内健君らによる 1 案は全国審査の結果、佳作の全国入選を果たした。今後の北海道支部への応募数増と入選案の躍進にも期待したい。

支部審査員：

主 査： 山田 良

委 員： 赤坂 真一郎，久野 浩志，小西 彦仁，山之内 裕一

(2) 審査講評

2021 年度支部共通設計競技「まちづくりの核として福祉を考える」審査評

全国入選 佳作

- ・「IBASYO STATION一車上生活ケアから始まるインクルーシブな道の駅」全国入選

坪井 健（北海道大学）他2名案

周知のように「道の駅」は、道路利用者へのサービス提供を目的として 24 時間さまざまな人々を受け入れる身近な福祉施設であり、国土交通省登録の公共施設でもある。提案は、近年問題となっている車中泊者とりわけ生活困窮車上生活者を対象とし、「道の駅」が内包する公益性の拡張を構想、駐車場と施設のモザイク配置と分棟化により利便性と居心地の良さを目指す。大屋根と小庇の建築構成は、人と車のスケールを獲得しようとしている。車社会で現代人が獲得した自由と孤立を意識化し、まちづくりの核として福祉を再定義しようとした点を評価。福祉に大切な当事者性、それが日常対話から生まれる姿を「居場所を見つける人々のストーリー」で描写した。
(文責：山之内裕一)

- ・「Reframing—就労継続支援 B 型事業所を新たな枠組みで可視化する—」

岩澤浩一（北海道科学大学）他 2 名案

札幌市郊外の商店街に実在する就労継続支援 B 型事業所のリノベーションを主とした計画。事業所での活動を可視化するだけでなく、隣接する空地へ施設を拡張し、商店街との接線を延長・連続化することで、まちづくりの「核」としてのポテンシャルを高めようとする実現性の高い提案である。事業所の枠組みを広げ、周囲の商店とリンクした活動を可視化することで同志を集

め、人を介して周辺都市施設と連携させようとする取り組みの先に、分断を乗り越え面的に街が Reframing されていく可能性を感じた。

(文責：赤坂真一郎)

・MURA

猪股航平（室蘭工業大学）他3名案

プログラムの立案に始まり、それをひとつの建築作品として昇華させるには、かなりの力量が必要な課題である。北海道支部に提出された作品においては、プログラムの説明に終始し、建築空間について語られることがほとんどない、事業コンペの様相を呈していた。そんな中でも、この作品は、建築によって何かをしようとしている姿勢に好感が持てた。地場産業である林業に着目し、その木材によって作り出される建築の温熱環境の違いを起点として、さまざまな活動の誘発しようとしている。しかし、配置計画や個室の作り方など検討できることはまだまだ沢山ある。プログラムを超えたところにある建築の在り方についてもっと考えて欲しかった。

(文責：久野 浩志)

9. 2 作品選集支部選考の実施

(1) 作品選集支部選考部会活動報告（主査：小篠 隆生：委員数6名：委員会開催数2回および現地審査7回

2021年の応募総数は昨年中止した影響もあり、16作品であり、支部としては近年稀に見る多く応募であった。地域の公共施設が4作品（庁舎2、コミュニティ施設2）、事務所5、ホテル・業4、住宅2、歴史的建造物の改修1であった。6月14日に第1回支部選考部会を開催し、10作品を現地審査対象作品として選出し、委員で分担して現地審査を行った。8月4日に第2回支部選考部会を開催し、現地審査の報告内容を含めて議論を重ねた後に投票を行い、本部へ推薦する6作品を選出し、選評を付して本部へ推薦した。なお、推薦した作品は、本部の委員会でも評価を得ることができ、6作品とも掲載することができた。

支部審査員：

主査：小篠 隆生

委員：小倉寛征，菊田 弘輝，田川 正毅，前田 芳伸，真境名達哉

(2) 作品選集支部選考の結果

北海道支部応募数：16点

支部選考結果（本部への推薦）6点

本部採用・作品選集掲載作品数：6点

作品選集への掲載作品

・NHK札幌拠点放送会館

杉山 俊一殿：日建設計

森 雅博殿：日建設計

甘粕 敦彦殿：日建設計

・鷹栖地区住民センター

加藤 誠殿：アトリエブунк/室蘭工業大学

池村 菜々殿：アトリエブунк

山脇 克彦殿：山脇克彦建築構造設計

・当麻町役場

海藤 裕司殿：元山下設計

柴田 俊介殿：山下設計

横山 雅行殿：元柴滝建築設計事務所

川田 朱殿：柴滝建築設計事務所

山脇 克彦殿：山脇克彦建築構造設計

・夕張市拠点複合施設

りすた
村國 健殿：アトリエブунк

- 尾辻 自然殿 : アトリエブंक
- 山脇 克彦殿 : 山脇克彦建築構造設計
- 瀬戸口 剛殿 : 北海道大学都市地域デザイン学研究室
- ・富良野の異形屋根
 - 高木 貴間殿 : 高木貴間建築設計事務所
 - 長谷川大輔殿 : 長谷川大輔構造計画
- ・瑞泉閣
 - 松尾 浩樹殿 : 大成建設一級建築士事務所
 - 杉江 夏呼殿 : 大成建設一級建築士事務所
 - 中谷芙美子殿 : 大成建設一級建築士事務所
 - 藤村太史郎殿 : 大成建設一級建築士事務所
 - 井之上 太殿 : 大成建設一級建築士事務所

9. 3 建築文化週間

建築文化週間 2021

①テーマ：講演会・見学会「小樽の建築 魅力再発見」

主 催：日本建築学会北海道支部

日 時：2021. 10. 16（土）

場 所：市立小樽美術館・小樽文学館（旧郵政省小樽地方貯金局）、松田ビル（旧三井物産小樽支店）

1) 講演会

日 時：10月16日（土）13:00～14:00

講演者：豊城浩行（文化庁文化財鑑査官）

2) 見学会

日 時：10月16日（土）14:10～16:00

解説者：日本建築学会北海道支部歴史意匠専門委員会委員 3名

参加者：29名

参加対象：学会員、地域一般市民、市町村職員、建築技術者、学生

参加者：29名

②テーマ：第46回（2021年度）北海道建築賞表彰式・記念講演会

主 催：日本建築学会北海道支部

日 時：2021. 10. 22（金）

講 師：小澤 丈夫「北海道大学医学部百年記念館」（第46回北海道建築賞）

青木 弘司「伊達の家」（第46回北海道建築奨励賞）

遠藤謙一良「株式会社遠藤建築アトリエ新社屋」（第46回北海道建築奨励賞）

場 所：北海道大学工学部建築都市スタジオ棟

参加対象：学会員、一般市民、建築関係者、学生

参加者：30名

③新型コロナウイルス感染症の拡大防止のため、開催中止とした。当初予定していた企画内容は以下の通りである。

テーマ：「くしろ防災屋台村」

主 催：日本建築学会北海道支部

共 催：北海道釧路総合振興局および建築関係団体

日 時：10月23日（土）10:00～16:00

会 場：釧路市こども遊学館（北海道釧路市幸町10-2）

講 師：日本建築学会北海道支部都市防災専門委員会委員

10. 建築関連団体との活動

10. 1 AIJ-JIA 合同委員会（委員数(AIJ)：8名)

本委員会では、AIJ, JIA 両団体の活動の活性化を目的として、合同の企画等に関わる事項について協議。協議内容は、①AIJ-JIA ジョイントセミナーの企画、②両団体の活動内容、③両団体のイベント紹介と参加要請についてである。

なお、2021 年度は下記の企画を開催した。

○2020 年度 AIJ-JIA 活動報告会

AIJ 支部報告：菊地優日本建築学会北海道支部長

JIA 支部報告：小西彦仁日本建築家協会北海道支部長

司会：日本建築学会北海道支部総務委員長 森 傑

○第 23 回 AIJ-JIA ジョイントセミナー

講師：千歩修(北海道大学大学院特任教授・前日本建築学会北海道支部支部長)

演題：「建築生産 新施工技術の開発」

10. 2 北海道建築設計会議 (幹事会開催数：12 回)

本会議は、日本建築学会北海道支部、北海道建築設計事務所協会、日本建築家協会北海道支部、北海道建築士会、北海道まちづくり促進協会、北海道設備設計事務所協会、日本構造技術者協会北海道支部、日本建築積算協会北海道支部、建築設備技術者協会北海道支部及び北海道建築技術協会の 10 団体により構成されている。本会からは、中西雅裕と桃野直樹の 2 名を参加させた。幹事会においては、各団体と情報交換や意見交換を行った。

11. 共催・後援 (新型コロナウイルス感染防止のため中止となった事業も含む)

1) 共催

期 日	名 称	会 場	主 催
2022. 3. 2	研究会「ブレース接合部設計の要点」 (支部構造専門委員会共催)	オンライン	日本建築学会近畿支部 鉄骨構造部会

2) 後援

期 日	名 称	会 場	主 催
2021. 9. 28 応募締切	第46回「北の住まい」住宅設計コンペ KITA SUMA		北海道建築士事務所協会
10. 15	「コンクリートの日 in HOKKAIDO出前講座 オンライン開催 大学から実務者へ～技術情報の発信と情報交換」	オンライン	日本コンクリート工学会
11. 27	公益社団法人日本都市計画学会北海道支部令和3年度研究発表会	オンライン	日本都市計画学会北海道支部
12. 2	Japan・Finland Online workshop on Datacenter in cold climate area	オンライン	北海道大学建築環境学研究室、他
2022. 1. 13	「北海道で培われた自然エネルギー利用技術の歴史～雪利用と地中熱」	オンライン	空気調和・衛生工学会北海道支部
2022. 1. 16	「防災ワンデー」釧路防災講演会2022	オンライン	防災ワンデー実行委員会
2022. 2	「グランドブリュッセルホテル定山溪」見学会	中止	空気調和・衛生工学会北海道支部

II 2021年度収支決算報告

2021年度 貸借対照表

2022年 3月31日現在

科目名称	当年度	前年度	増減	科目名称	当年度	前年度	増減
I 資産の部				II 負債の部			
1 流動資産				1 流動負債			
現金預金	3,777,173	3,374,873	402,300	未払金	0	0	0
未収金	6,000	0	6,000	前受金	24,000	6,000	18,000
前払金	171,809	171,809	0	預り金	19,632	19,871	△239
仮払金	27,180	27,756	△576	仮受金	582,131	581,951	180
				賞与引当金	0	0	0
流動資産合計	3,982,162	3,574,438	407,724	流動負債合計	625,763	607,822	17,941
2 固定資産				2 固定負債			
(1) 基本財産	0	0	0	退職給付引当金	1,260,000	1,200,000	60,000
基本財産合計	0	0	0	固定負債合計	1,260,000	1,200,000	60,000
(2) 特定資産				負債の部合計	1,885,763	1,807,822	77,941
学術振興基金引当資産	4,290,000	4,380,000	△90,000	III 正味財産の部			
災害調査研究基金引当資産	1,900,000	1,900,000	0	1 指定正味財産			
支部基金引当資産	2,610,000	2,610,000	0	指定正味財産合計	0	0	0
退職給付引当資産	1,260,000	1,200,000	60,000	(うち基本財産への充当額)	(0)	(0)	(0)
特定資産合計	10,060,000	10,090,000	△30,000	(うち特定資産への充当額)	(0)	(0)	(0)
(3) その他の固定資産				2 一般正味財産	12,717,949	12,418,166	299,783
敷金	561,550	561,550	0	(うち基本財産への充当額)	(0)	(0)	(0)
その他の固定資産合計	561,550	561,550	0	(うち特定資産への充当額)	(8,800,000)	(8,890,000)	(△90,000)
固定資産合計	10,621,550	10,651,550	△30,000	正味財産合計	12,717,949	12,418,166	299,783
資産の部合計	14,603,712	14,225,988	377,724	負債及び正味財産合計	14,603,712	14,225,988	377,724

2021年度 正味財産増減計算書

2021年 4月 1日から 2022年 3月31日まで

科目名称	当年度	前年度	増減	科目名称	当年度	前年度	増減
I. 一般正味財産増減の部							
1. 他会計振替額							
交付金収入	(6,857,000)	(6,826,000)	(31,000)				
支部費	1,727,000	1,682,000	45,000				
支部経営助成費	1,860,000	1,890,000	△30,000				
事業促進費	300,000	300,000	0				
支部研究補助費	200,000	200,000	0				
教育文化事業交付金	564,000	548,000	16,000				
大会交付金	0	0	0				
支部事務費	300,000	300,000	0				
支部事務所費	1,906,000	1,906,000	0				
他会計からの振替額計	6,857,000	6,826,000	31,000				
2. 経常増減の部							
[1] 経常収益				[2] 経常費用			
(1) 実施事業会計	(175,000)	(175,000)	(0)	(1) 実施事業会計	(1,132,095)	(589,196)	(542,899)
表彰・顕彰事業	(175,000)	(175,000)	(0)	調査研究事業	(347,403)	(294,108)	(53,295)
表彰関係	175,000	175,000	0	調査研究事業	347,403	294,108	53,295
(2) その他会計	(2,052,457)	(1,880,612)	(171,845)	表彰・顕彰事業	(630,170)	(169,612)	(460,558)
研究会事業	(1,552,457)	(1,380,612)	(171,845)	表彰関係	628,960	166,818	462,142
支部研究発表会	803,640	707,390	96,250	設計競技	1,210	2,794	△1,584
建築作品発表会	740,715	669,120	71,595	社会対応事業	(154,522)	(125,476)	(29,046)
過年度研究会事業	8,102	4,102	4,000	文化事業	154,522	86,222	68,300
委託事業	(500,000)	(500,000)	(0)	展示会事業	0	39,254	△39,254
調査研究委託事業	500,000	500,000	0	(2) その他会計	(1,926,643)	(2,128,362)	(△201,719)
(3) 法人会計	(464)	(1,459)	(△995)	研究会事業	(1,501,643)	(1,703,362)	(△201,719)
特定資産運用益	(411)	(1,416)	(△1,005)	支部研究発表会	495,238	407,660	87,578
特定資産受取利息	411	1,416	△1,005	建築作品発表会	1,006,405	1,295,702	△289,297
雑収益	(53)	(43)	(10)	委託事業	(425,000)	(425,000)	(0)
受取利息	51	43	8	調査研究委託事業	425,000	425,000	0
雑収益	2	0	2	(3) 法人会計	(5,726,400)	(5,795,016)	(△68,616)
				支部運営	(0)	(47,190)	(△47,190)
				支部総会	0	47,190	△47,190
				支部役員会	0	0	0
				選挙管理委員会	0	0	0
				その他運営費	0	0	0
				支部事務運営	(5,726,400)	(5,747,826)	(△21,426)
				給与手当	2,101,368	2,080,934	20,434
				退職給付費用	60,000	60,000	0
				法定福利厚生費	377,098	376,312	786
				福利厚生費	22,597	22,214	383
				通勤手当	184,440	184,440	0
				旅費交通費	3,880	7,170	△3,290
				通信回線費	120,701	131,995	△11,294
				発送運搬費	36,363	16,033	20,330
				消耗品費	11,054	52,490	△41,436
				印刷費	12,430	33,195	△20,765
				支払手数料	24,365	19,140	5,225
				貸貸料	131,208	138,640	△7,432
				地代家賃	2,061,708	2,061,708	0
				水道光熱費	533,161	526,614	6,547
				雑費その他	46,027	36,941	9,086
経常収益計	2,227,921	2,057,071	170,850	経常費用計	8,785,138	8,512,574	272,564
当期経常増減額	△6,557,217	△6,455,503	△101,714				
当期一般正味財産増減額	299,783	370,497	△70,714				
一般正味財産期首残高	12,418,166	12,047,669	370,497				
一般正味財産期末残高	12,717,949	12,418,166	299,783				
II. 指定正味財産増減の部							
指定正味財産期末残高	(0)	(0)	(0)				
III. 正味財産期末残高							
	12,717,949	12,418,166	299,783				

2021年度 正味財産増減計算書（決算-予算対比）

2021年4月1日 ～ 2022年3月31日

（単位：円）

科 目	予 算 額	決 算 額	差 異
I 一般正味財産増減の部			
1. 経常増減の部			
(1) 経常収益			
（特定資産運用益）	(2,000)	(411)	(1,589)
特定資産受取利息	2,000	411	1,589
（事業収益）	(1,945,000)	(2,227,457)	(Δ) 282,457
掲載・発表登録収益	1,450,000	1,431,000	19,000
書籍・資料収益	320,000	121,457	198,543
受託収益	0	500,000	Δ 500,000
協賛金・共催分担金	175,000	175,000	0
（雑収益）	(51,000)	(53)	(50,947)
受取利息	1,000	51	949
雑収益	50,000	2	49,998
経常収益計	1,998,000	2,227,921	Δ 229,921
(2) 経常費用			
（事業費）	(3,635,000)	(3,058,738)	(576,262)
臨時雇用賃金	35,000	45,000	Δ 10,000
旅費交通費	795,000	683,302	111,698
通信回線費	0	24,310	Δ 24,310
発送運搬費	180,000	66,915	113,085
消耗品費	0	240,361	Δ 240,361
印刷費	1,895,000	877,850	1,017,150
会議費	45,000	20,800	24,200
表彰費	270,000	84,229	185,771
外注費	0	925,650	Δ 925,650
諸謝金	0	77,959	Δ 77,959
支払手数料	0	1,320	Δ 1,320
保険料	0	8,860	Δ 8,860
新聞図書費	0	1,782	Δ 1,782
租税公課	0	400	Δ 400
雑費	415,000	0	415,000
（管理費）	(6,103,000)	(5,726,400)	(376,600)
給与手当	2,076,000	2,101,368	Δ 25,368
退職給付費用	60,000	60,000	0
法定福利費	367,000	377,098	Δ 10,098
福利厚生費	30,000	22,597	7,403
通勤手当	184,000	184,440	Δ 440
旅費交通費	42,000	3,880	38,120
通信回線費	120,000	120,701	Δ 701
発送運搬費	30,000	36,363	Δ 6,363
消耗品費	40,000	11,054	28,946
印刷費	105,000	12,430	92,570
会議費	95,000	13,200	81,800
地代家賃	2,061,000	2,061,708	Δ 708
水道光熱費	660,000	533,161	126,839
支払手数料	30,000	24,365	5,635
賃借料	145,000	131,208	13,792
租税公課	0	67	Δ 67
雑費	58,000	32,760	25,240
経常費用計	9,738,000	8,785,138	952,862
評価損益調整前経常増減額	Δ 7,740,000	Δ 6,557,217	Δ 1,182,783
当期経常増減額	Δ 7,740,000	Δ 6,557,217	Δ 1,182,783
2. 経常外増減の部			
(1) 経常外収益			
経常外収益計	0	0	0

(単位：円)

科 目	予 算 額	決 算 額	差 異
(2) 経常外費用			
経常外費用計	0	0	0
当期経常外増減額	0	0	0
交付金収入	6,738,000	6,857,000	△ 119,000
他会計振替額	6,738,000	6,857,000	△ 119,000
税引前当期一般正味財産増減額	△ 1,002,000	299,783	△ 1,301,783
当期一般正味財産増減額	△ 1,002,000	299,783	△ 1,301,783
一般正味財産期首残高	11,920,000	12,418,166	△ 498,166
一般正味財産期末残高	10,918,000	12,717,949	△ 1,799,949
II 指定正味財産増減の部			
当期指定正味財産増減額	0	0	0
指定正味財産期首残高	0	0	0
指定正味財産期末残高	0	0	0
III 正味財産期末残高			
正味財産期末残高	10,918,000	12,717,949	△ 1,799,949

「支部役員会一覧」

支部長（2020.6.1～2022.5.31）

菊地 優（北海道大学教授）

常議員（2020.6.1～2022.5.31）

- ※石塚 和彦（石塚和彦アトリエ一級建築士事務所代表）
- 垣田 淳（榊竹中工務店北海道支店設計部課長代理）
- 佐伯 健一（北海道札幌工業高等学校建築科教諭）
- 菅原 秀見（榊日建設計札幌設計部門アソシエイトアーキテクト）
- 中西 雅裕（大成建設(株)札幌支店建築部作業所長）
- ※前田憲太郎（北海道科学大学准教授）
- 山田 信博（札幌市立大学准教授）

常議員（2021.6.1～2023.5.31）

- 石橋 達勇（北海学園大学教授）
- 今野 伴子（北海道上川総合振興局旭川建設管理部建設行政室建設指導課主幹）
- 齋藤 茂樹（地方独立法人北海道立総合研究機構主査）
- 鷺見 健二（SUMI 建築計画室代表）
- ※藤嶋 健太（清水建設(株)北海道支店設計部主任）
- 桃野 直樹（岩田地崎建設(株)北海道本店設計部設計課総合主事）
- ※森 太郎（北海道大学教授）

代議員（2020.4.1～2022.5.31）

- 久新信一郎（岩田地崎建設(株)北海道本店第二営業部部長）
- 米田 浩志（北海学園大学教授）

代議員（2021.4.1～2023.5.31）

- 海藤 裕司（日本設計札幌支社副支社長）
- 千歩 修（北海道大学教授）

支部監事（2020.6.1～2022.5.31）

- 大條 雅昭（公益財団法人建築技術教育普及センター北海道支部事務局長）

支部監査（2021.6.1～2023.5.31）

- 菅沼 秀樹（(株)アトリエブंक代表取締役社長）

総務委員長（2018.6.1～ ）

- 森 傑（北海道大学教授）

支部学術委員長（2020.4.1～2022.3.31）

- 岡崎太一郎（北海道大学教授）

支部 HP 管理委員会（2015.4.1～ ）

- 森 太郎（北海道大学教授）

支部事務局

- 菊地八重子（日本建築学会北海道支部）

（※印 常任幹事）

監査報告

2021 年度における一般社団法人日本建築学会北海道支部の業務及び経理を監査の結果、業務は適法であり、収入支出とも適正なものと認める。

2022 年 4 月 21 日

支部監事 _____

支部監事 _____

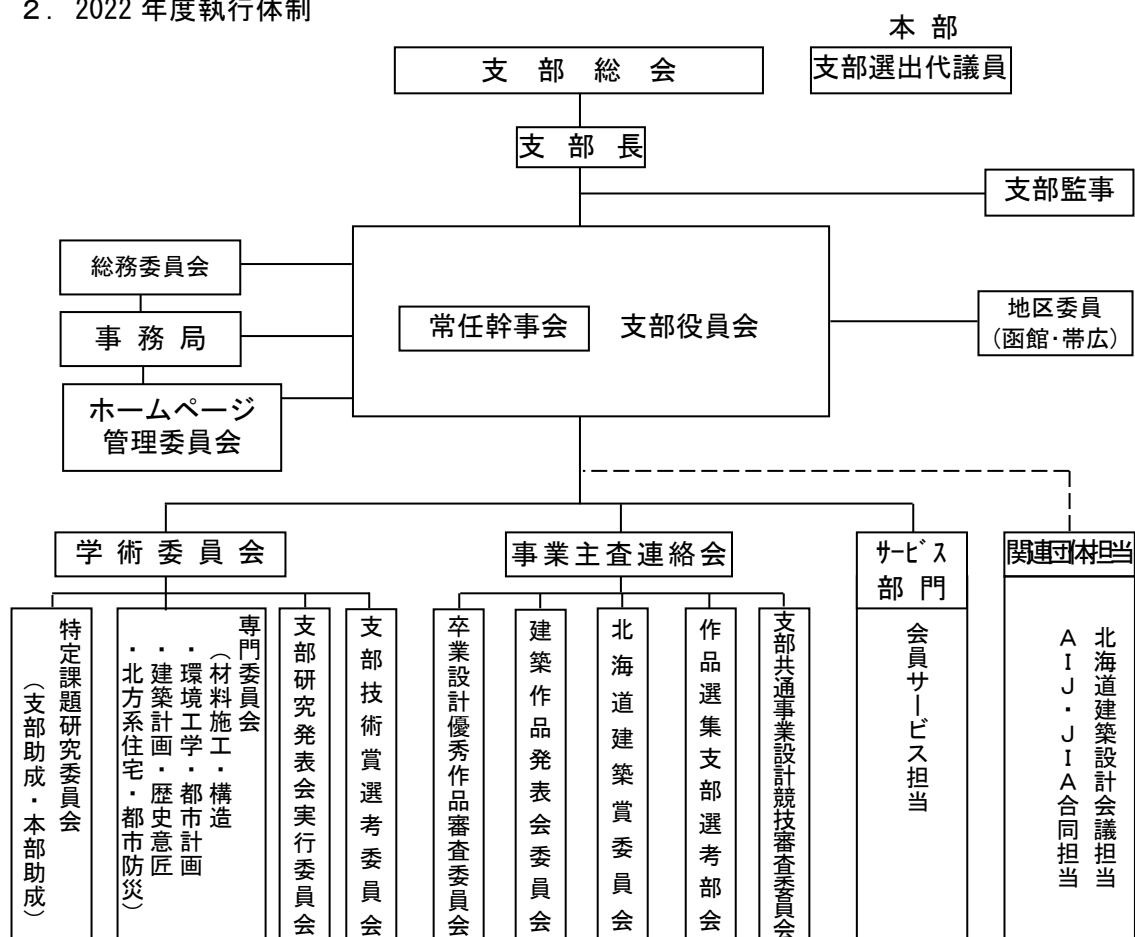
Ⅲ 2022 年度事業計画方針案

1. 活動方針

まずは、例年行われている事業（支部運営の諸会合の開催、受託研究の受託、支部研究発表会の実施、表彰、北海道建築作品発表会の実施、特別委員会、講習会・シンポジウム等の開催、本部関連事業・その他、建築関連団体との活動、共催・講演など）を行う。これらの事業を行うなかで、コロナ禍による学会活動の停滞回避に配慮し、オンライン技術を積極的に活用することにより、支部活動・研究活動の活性化、若手や女性の活用・ネットワーク化などを考慮して活動を進める。加えて、学会活動の主要行事である 2022 年度日本建築学会大会（北海道）を成功裏に収めるべく、大会実行委員会の開催準備活動のサポートに努める。

支部活動の維持・活性化のために財政の強化に関して継続的に検討する。また、支部事務所ビルおよび周辺の再開発計画等に対する情報収集などを行い、将来的な支部事務所のあり方について検討する。

2. 2022 年度執行体制



日本建築学会北海道支部組織構成図

新任支部長（2022.6.1~2024.5.31）

小澤 丈夫 北海道大学教授

新任常議員（2022.6.1~2023.5.31）

金子 晋也 札幌市立大学准教授
佐伯 健一 北海道札幌工業高等学校建築科教諭
十河 昌司 (株)石本建築事務所エンジニアリング部門技術グループ主任
高嶋 一穂 (株)竹中工務店北海道支店設計部設計2グループ長
大田 司 DAIDA DESIGN STUDIO 代表
福田 菜々 北海道科学大学准教授
三崎 利彦 大成建設(株)札幌支店建築部作業所長

(※印 常任幹事は6月以降決定)

新任常議員は、支部役員選挙開票（2022年4月19日）により決定した。

支部役員選挙管理委員は次の通りであった。(☆印 委員長)

石塚 和彦, 藤嶋 健太, ☆前田憲太郎, 森 太郎

留任常議員（2021.6.1~2023.5.31）

石橋 達勇 北海学園大学教授
今野 伴子 北海道上川総合振興局旭川建設管理部建設行政室建設指導課主幹
齋藤 茂樹 地方独立法人北海道立総合研究機構主査
鷺見 健二 SUMI 建築計画室代表
※藤嶋 健太 清水建設(株)北海道支店設計部主任
桃野 直樹 岩田地崎建設(株)北海道本店総合主事
※森 太郎 北海道大学教授

新任代議員（2022.4.1~2023.3.31）

深瀬 孝之 北海道科学大学教授
堀尾 浩 堀尾浩建築設計事務所代表

(2022年3月の本部選挙の結果、上記2名が選出)

留任代議員（2020.4.1~2022.3.31）

海藤 裕司 (株)日本設計札幌支社副支社長
千歩 修 北海道大学教授

新任支部監事（2022.6.1~2024.5.31）

米田 浩志 北海学園大学教授

(2022年4月の支部役員会で承認)

留任支部監事（2021.6.1~2023.5.31）

菅沼 秀樹 (株)アトリエブク代表取締役社長

地区委員（2022.6.1~2023.5.31）

帯広地区委員 小野寺 一彦 設計工房アーバンハウス主宰
函館地区委員 山本 真也 元函館市教育委員会教育長

3. 支部運営の諸会合の開催

◆ 総会

期日 2022年5月20日(金)
会場 オンライン開催

◆ 支部役員会 (複数回)

◆ 常任幹事会 (複数回)

◆ 選挙管理委員会 (支部役員選挙時に開催する)

4. 学術系委員会

4. 1 学術委員会 (主査：谷口 尚弘, 委員数：13名, 委員会開催予定数：4回)

本委員会は、本部学術推進委員会の情報を報告するとともに、各専門委員会・研究委員会から活動報告を受け、各委員会の活動の横断的な連携をはかる。また、支部長諮問事項についての検討、支部研究発表会実行委員会の企画の審議と承認、支部研究発表会と連動する技術パネル展の企画と運営、特定課題研究(本部・支部助成)の推薦、建築文化週間事業の募集と選考、北海道支部技術賞の募集と支部技術賞選考委員会の設置による選考、道内工業高校巡回講演会への講師派遣を行なう。その他、事業主査連絡会との横断的な連携をはかる。

第1回：本部学術推進委員会の報告。支部研究発表会の報告。各専門委員会・研究委員会の活動報告。建築文化週間事業の募集。特定課題研究の募集。

第2回：支部研究発表会に関連する内容の審議。各専門委員会・研究委員会の活動報告。建築文化週間企画および特定課題研究の承認。支部技術賞の募集。

第3回：本部学術推進委員会の報告。次年度の支部研究発表会の企画、各専門委員会・研究委員会の活動報告。支部技術賞選考委員会の設置。

第4回：支部研究発表会特別企画の決定。各専門委員会・研究委員会の活動報告。特定課題研究の結果報告。支部技術賞選考委員会による支部技術賞の表彰候補の選考。

なお、特定課題研究委員会は、次の通りである。

(継続：本部助成)「三笠市の炭鉱遺産群の現地調査、及び歴史的研究」主査：武田 明純 2021-22

(新規：支部助成)「パッシブ換気システムを持つ北方型住宅のオープンクーリングに関する研究」主査：齊藤 雅也 2022-23

4. 2 専門委員会

◆ 材料施工専門委員会 (主査：深瀬 孝之, 委員数：21名, 委員会開催数：3回)

建築の材料・施工に関する情報や意見の交換のほか、支部長から諮問される事項の検討、本部との情報交流や諮問事項の検討、最新の施工現場や特色のある建築物や工事現場の見学会、本部主催講習会への協力や北海道に関連する材料施工部門の研究委員会活動を行う。

具体的な活動予定は以下のとおりである。

- ・ 本部および支部各種委員会報告と諮問事項の審議
- ・ 勉強会(話題提供)
見学会の開催

◆ 構造専門委員会 (主査：植松 武是, 委員数：21名, 委員会開催予定数：2回)

各種行事を企画して道内における構造分野の研究者・技術者との情報交換を行い、構造に関する研究調査を推進する。また、構造分野において、若手会員の学会活動への参加を支援する。更には、新型コロナウイルス感染症拡大防止に配慮したこれらの活動の在り方や方法を模索する。

主な活動と時期など

- 1) 幹事会の開催：2回（9月，3月）。但し，新型コロナウイルス感染症の拡大状況によっては，Webまたはメール審議とする。
- 2) 講演会・講習会：2回程度。但し，新型コロナウイルス感染症の拡大状況によっては中止とする。
- 3) 見学会：2回程度。但し，新型コロナウイルス感染症の拡大状況によっては中止とする。
- 4) 勉強会：1回（委員会開催時）
内容は構造に関わらず幅広い分野を対象とする。但し，新型コロナウイルス感染症の拡大状況によっては中止とする。

◆環境工学専門委員会（主査：魚住 昌広，委員数：15名，委員会開催予定数：3回）

- 1) 学位を取得した若手研究者等の研究発表の機会を設け，最新の研究動向を把握する。
- 2) 環境建築や最新の設備技術等を導入した建築の見学会を，他委員会と連携して開催する。
- 3) 第17回環境工学系・卒業論文発表会（EGGs'22）の開催を支援する。
- 4) 空気調和・衛生工学会北海道支部主催地区講演会ほか，本委員会の関係組織が主催する講演会，セミナー等を支援する。

◆建築計画専門委員会（主査：石橋 達勇，委員数：12名，委員会開催予定数：3回）

委員会開催の他に、北海道内地方都市における再開発事業計画の現状や課題の把握を目的とした勉強会を2～3回開催する。これは都市計画的視点による事業進展の一方で、建築物の有効活用の見通しや実態が不明であることが背景にある。なお勉強会で収集した知見や課題は、公開研究会の開催を通して社会に還元する。また上記は全国の地方都市における共通事象であると予想されることから2022年度大会研究協議会にて討議を行う。

◆都市計画専門委員会（主査：森 朋子，委員数：14名，委員会開催予定数：4回）

委員会は、奇数月第3火曜日（5，7，9，11月）に固定し、サロン形式により適宜ゲスト枠も設けて開催する。産官学各分野に所属する委員構成が、本委員会の大きな特性である。全4回の委員会では、2021年度から継続してカーボンニュートラルと札幌都心部を主なテーマに情報交換し、産官学各分野の連携・協働の可能性を模索する。特に札幌都心部では2030年新幹線延伸を見据えた都市開発が盛んで、抱えている諸課題解決の好機でもある。また、当委員会に加え、他学会との合同研究会や公開研究会を2回程度開催し、都市ビジョンの提示などを目指したい。

◆歴史意匠専門委員会（主査：武田 明純，委員数：18名，委員会開催予定数：4回）

道内各地域の歴史的建造物の現状を把握することに努め、保存・活用等に関して委員相互の情報交換を行い、必要に応じて学会として委託研究を含め社会や住民に貢献する体制を整備する。具体的には、建築文化週間事業として、講演会と見学会を合わせた「登録有形文化財の保存・活用を体感する—江別市 北海道林木育種場旧庁舎—」を10月中旬に開催する予定である。この他、特定課題研究として三笠市の炭鉱遺構群の現況調査を行う。

◆北方系住宅専門委員会（主査：真境名達哉，委員数：11名，委員会開催予定数：4回）

委員会では具体的に(1)2021年より行っているサンルーム付き公営住宅の調査研究を継続し、本年度は自治体などのへの提言を行う。(2)また本年度より複数年「(仮)気候特性地域の住宅」というテーマでの調査研究を着手する。(3)寒冷地の住宅の最新の話題の把握などを行う。また、例年開催の寒冷地住宅見学会の開催も試みる。

◆都市防災専門委員会（主査：竹内 慎一，委員数：16名，委員会開催予定数：1回）

活動方針

委員相互の連携，防災関係機関との連携，他学協会との連携，地域との連携を強化するとともに，次の世代を担う若い人を育てていくための「防災教育の充実」を進める。

Web会議やSNSなどを活用した委員会活動の進め方を検討する。

主な活動事業

- 1) 建築文化週間事業「地震防災体験学習」の実施（2022年10月に釧路で予定）。
- 2) 構造専門委員会や材料施工専門委員会との共催による見学会、講習会の実施。
- 3) 災害時の北海道支部緊急連絡体制の整備と充実。
- 4) 各種防災イベントへの協力

4. 3 特定課題研究委員会

（2022年度より）

- ◆北方型住宅オープンクーリング研究委員会（主査：斉藤 雅也，委員数：6名，委員会開催予定数：複数回）

パッシブ換気システムを持つ北方型住宅のオープンクーリングに関する調査研究を行う。

4. 4 本部からの支部助成金による研究委員会

（2021年度より）

- ◆三笠市炭鉱遺構群調査研究委員会（主査：武田 明純，委員数：6名，委員会開催予定数：4回）

三笠市の幌内炭鉱の選炭機の遺構の現状を把握するため、令和3年度の調査では実測できなかった遺構の実測調査や写真撮影を行う。その結果に基づき、幌内炭鉱の遺構の復元的考察を行う。また、幌内炭鉱の歴史や幌内炭鉱の選炭機の沿革などを明らかにするため、北海道博物館や北海道資料館にて、幌内炭鉱に関する資料調査を行う。

5. 支部研究発表会

- 5. 1 支部研究発表会実行委員会（主査：植松 武是，幹事：石橋 達勇，足立 裕介，実行委員会委員数：19，委員会開催予定回数：6回）

第95回支部研究発表会を開催する。

日時：2022年6月25日（土）オンライン開催

ホスト会場：北海学園大学山鼻キャンパス工学部（札幌市中央区南26条西11丁目）

その他：活動期間：2021年11月～2022年9月

活動内容：実行委員会5回（メール審議，プログラム編成1回，遠隔システム確認1回含む）

#1：11月下旬 #2：1月下旬 #3：4月下旬（プログラム編成）#4：6月中旬

#5：8月下旬

支部研原稿締め切り 4月14日（木）予定

原稿の受付は電子データとし，予稿集はCD-ROMとする。

学会長講演会を開催する。

企業等パネル展示及び懇親会の実施は断念。

6. 表彰

- 6. 1 北海道建築賞（主査：小澤 丈夫，委員数：5名，委員会開催予定数：複数回）

（1）賞の概要

建築作品を支える「先進性」「規範性」「洗練度」の3つの視点から現地視察、議論を通して選考し、北海道建築賞の表彰と受賞者による記念講演会を行い、北海道における建築創作活動の一

層の促進を図る。

(2) 北海道建築賞委員会の実施

上記の方針に基づき、以下のスケジュールによって委員会を実施する。

- 1) 第46回北海道建築賞の応募期間：2022年4月15日(金)～5月13日(金)
- 2) 審査期間：5月上旬(応募状況の確認)～6月中旬(書類審査)～7・8月(現地審査)～9月上旬(最終選考)
- 3) 結果発表：9月下旬(常議員会での承認後)
- 4) 北海道建築賞表彰式および受賞記念講演会 10月下旬予定

(3) 委員構成

委員5名で委員会運営を行う。

小澤丈夫(北海道大学：主査)他4名。

6. 2 卒業設計優秀作品(日本建築学会北海道支部賞)(主査：菅原 秀見, 委員数：6名, 委員会開催予定数：1回)

(1) 賞の概要

大学・短大・高専・専門学校・工業高校の優秀作品の表彰を行い、北海道地域の文化、建築教育および技術の向上を図る。

(2) 卒業設計優秀作品審査委員会の実施

2022年度卒業設計優秀作品審査委員会においては、2021年度と同様、2022年度卒業設計作品について優秀作品審査委員会を実施し、表彰の目的、審査の考え方を確認した上で「大学」「短大・高専・専門学校」「工業高校」の部門別に金、銀、銅の各賞を選考する。また、講評の論点を確認し、各選考作品の講評を行う。

6. 3 卒業優秀学生・生徒(日本建築学会北海道支部賞)

大学・短大・高専・工高の優秀学生・生徒の表彰を行い、北海道地域の文化、建築教育の向上を図る。

6. 4 日本建築学会北海道支部功労賞

当支部の維持・発展にとって功績・功労のあった支部に所属する会員、または所属した会員に対して、支部としての感謝の意を表するとともに、支部活動の活性化と意識の高揚を図ることを目的とし、表彰を実施する。

6. 5 日本建築学会北海道支部技術賞

北海道支部技術賞は、地域性に関わって、創造性豊かな建築・都市に関する新技術を表彰することにより、北海道における建築界の技術の向上に資することを目的とし、表彰を実施する。

7. 北海道建築作品発表会

7. 1 北海道建築作品発表会委員会(主査：植田 暁, 委員数：6名, 実行委員数：15名委員会開催数：5回(実行委員会2回を含む))

2021年度末現在、新型コロナウイルス感染拡大収束の見通しはまだたっていない。そのため、2022年度に従来通りの対面形式での作品発表会が開催できるか否かについては、今後の感染状況を注視した上で、然るべき時期に開催可否とその方式について判断せざるを得ない。しかしながら、全面的な対面方式による開催が難しい場合でも、第42回建築作品発表会作品集VOL-42作品集の出版と、2020・2021年度に試行済の参加人数を限定した対面方式とオンライン方式併用での開催を視野に入れながら、伝統ある本作品発表会を継続する予定である。併行して、2022年度に議

論をはじめた発表作品のデジタルアーカイブ化ならびに情報公開方法について継続検討する。

7. 2 第43回北海道建築作品発表会

第43回北海道建築作品発表会の実施予定

作品登録締め切り：9月中旬から下旬

作品集原稿締め切り：10月上旬から中旬

作品発表会開催時期：11月下旬から12月上旬

作品発表会開催場所：会場未定またはオンライン開催

8. 特別委員会

8. 1 事業主査連絡会（事業系5委員会の主査および事業主査連絡会担当常議員，必要に応じて開催）

事業系5委員会は、本部事業と支部事業の委員会が含まれている中で、適宜事業を把握し、役員会へ報告提案をおこなう。それぞれの事業は印刷物やHPで公表するとともに支部事業の活性化を検討する。

8. 2 総務委員会（委員長：森 傑，担当常議員，委員会開催予定数：1回）

委員会の目的である北海道支部事務局運営の健全性を維持するために、適宜委員会を開催し、財務管理・事務局業務管理について検討する。昨今の経済状況により、支部の財政状況がさらに困難さを増していることから、各事業に対して早めの詳細予算策定および事業終了後の決算報告についての提出を厳格にして、見通しのある財務管理を進める予定である。さらに事務局業務の効率化、日本建築家協会北海道支部との合同企画についても検討を行う。

総務委員会（2022年度）

委員長：森 傑 北海道大学

委員： 担当常議員

8. 3 ホームページ管理委員会（主査：森 太郎，委員数：2名，必要に応じて開催）

2022年度は以下の活動を予定している。

- 1) 常議員会、事務局等の要請に応じて適宜、ホームページの更新作業を行なう。
- 2) Facebook ページへのイベント周知，報告を行う。
- 3) 会議資料等のアーカイブ手法の検討。

8. 4 北海道支部女性会員の会（建築女子 café）（主査：野村 理恵，委員数：11名，委員会開催予定数：複数回）

建築女子 café の第三段企画を立案し実施する。第2回は学生の参加者が少なかったことが課題であるため、開催時期や内容、広報について改善する。また、高校生への働きかけも視野にいれ、他団体との共同による女性交流イベントを行う。

9. 講習会・シンポジウム等の開催

本部主催による講習会・講演会のほか、地域の要請にこたえる各種の講演・講習会を、工業高校・自治体及び関連諸団体等の協力を得て複数の地域で企画実施する。

9. 1 本部主催講習会

2022 年度本部主催支部共通事業、委員会主催講習会を開催する予定。

9. 2 講演会

各専門委員会等の主催により、自治体、関係諸団体等の協力を得て企画実施する。

9. 3 展示会

支部卒業設計優秀作品を学会支部ホームページにて公開する。また、全国大学・高専卒業設計優秀作品巡回展ならびに道内工高卒業設計優秀作品巡回展を実施する。

9. 4 見学会

各専門委員会等の主催により、自治体、関係諸団体等の協力を得て企画実施する。

10. 本部関連事業・その他

10. 1 2022 年度支部共通事業設計競技の実施（主査：山田 良，委員数：6 名， 委員会開催予定数：1 回）

2022 年度設計競技審査委員会は、主査：山田良、委員：赤坂真一郎，久野浩志，小西彦仁，山之内裕一の委員に、あらたに松島潤平を加え計 6 名にて行う予定である。

2022 年度の課題は『「他者」とともに生きる建築』と決定され、7 月中に支部審査を 1 回行う予定である。

2021 年度の応募総数は 10 案で、前回は応募数からほぼ同数になっている。3 案の支部入選案のうち 1 案は全国審査において受賞した。今後の更なる応募数増加を期待したい。

10. 2 作品選集支部選考部会（主査：真境名達哉，委員数：7 名， 委員会開催予定数：複数回及び現地審査）

2021 年度から応募資料は全部電子データになったので、委員全員で詳細に応募資料を検討し、応募ファイルに基づく 1 次審査、さらに現地審査をふまえての 2 次審査を行ない、支部として作品選集委員会に推薦する作品を選出する。作品選集の主旨にかなう建築を、意匠・環境・構造など各分野の委員相互の十分な議論を通して選ぶとともに、本部での選考審査に耐えうる、北海道の価値ある建築が作品選集の掲載に至るよう評価を行い、本部へ推薦するものとする。

10. 3 建築文化週間

グループセミナーなどを通して地域との研究交流を深め、また建築文化週間などの文化事業を通じて、開かれた学会として社会に対する文化活動の推進を図る。本年度予定している文化関連事業は、以下の 3 件を予定している。

1. 「くしろ防災屋台村」（都市防災専門委員会）
2. 見学会「登録有形文化財の保存・活用を体感する－江別市北海道林木育種場旧庁舎－」（歴史意匠専門委員会）
3. 第 47 回北海道建築賞表彰式・記念講演会（支部主催）

11. 建築関連団体との活動

11. 1 AIJ-JIA 合同委員会（委員数(AIJ)：5 名，委員会開催予定数：1 回）

日本建築家協会北海道支部(JIA)と合同委員会を開催し、両団体の活動についての情報交換および合同企画について協議する。ジョイントセミナーについては継続して行うように計画を進める。

1 1. 2 北海道建築設計会議

10 団体により構成されている本会議は、建築確認制度や建築士制度など、主に建築業界に共有の課題について、引き続き情報交換や意見交換をおこなう予定である。

1 2. 2022年度日本建築学会大会（北海道）の開催

2022 年度日本建築学会大会（北海道）が下記の要領で開催される。

記

開催日・期間：2022 年 9 月 5 日（月）～9 月 8 日（木）の 4 日間

場所：北海道科学大学およびオンライン

支部内に組織された大会実行委員会では、新型コロナウイルス感染症対策を最重要課題と考え、学術講演・建築デザイン発表会の完全オンラインと研究集会の一部を対面開催というハイブリット開催の形態をとることとしており、安全かつ円滑な大会運営を期して開催準備を進める。

IV 2022年度収支予算案

2022年度 予算書（正味財産増減計算ベース） 北海道支部

科 目	2022年度予算額	2021年度予算額	前年度比 (増 減)
I. 一般正味財産増減の部			
1. 他会計からの振替額			
本部からの交付金	(13,232,000)	(6,738,000)	(6,494,000)
支部費	1,616,000	1,596,000	20,000
経営助成費	1,860,000	1,890,000	▲30,000
事業促進費	300,000	300,000	0
支部研究補助費	200,000	200,000	0
建築文化事業費	550,000	546,000	4,000
大会交付金	6,500,000	-	6,500,000
支部事務費	300,000	300,000	0
支部事務所費	1,906,000	1,906,000	0
他会計からの振替額計 (A)	13,232,000	6,738,000	6,494,000
2. 経常増減の部			
[経常収益]			
実施事業会計	(175,000)	(175,000)	(0)
表彰・顕彰事業	(175,000)	(175,000)	(0)
表彰関係事業	175,000	175,000	0
その他事業会計	(34,170,000)	(1,770,000)	(32,400,000)
研究会事業	(34,170,000)	(1,770,000)	(32,400,000)
支部研究発表会	800,000	800,000	0
建築作品発表会	950,000	950,000	0
過年度研究集会	20,000	20,000	0
大会（全国大会）	32,400,000	-	32,400,000
法人会計	(51,000)	(53,000)	(▲2,000)
特定資産運用益	(1,000)	(2,000)	(▲1,000)
特定資産運用益	1,000	2,000	▲1,000
雑収益	(50,000)	(51,000)	(▲1,000)
受取利息	-	1,000	▲1,000
雑収益その他	50,000	50,000	0
経常収益計 (B)	34,396,000	1,998,000	32,398,000
[経常費用]			
実施事業会計	(1,900,000)	(1,900,000)	(0)
調査研究事業	(740,000)	(740,000)	(0)
調査研究事業	740,000	740,000	0
表彰・顕彰事業	(740,000)	(740,000)	(0)
表彰関係事業	700,000	700,000	0
設計競技事業	40,000	40,000	0
社会対応事業	(420,000)	(420,000)	(0)
文化事業費	390,000	390,000	0
展示事業費	30,000	30,000	0
その他事業会計	(37,510,000)	(1,735,000)	(35,775,000)
研究会事業	(37,510,000)	(1,735,000)	(35,775,000)
支部研究発表会	700,000	685,000	15,000
建築作品発表会	1,150,000	1,050,000	100,000
大会（全国大会）	35,660,000	-	35,660,000
法人会計	(6,134,000)	(6,103,000)	(31,000)
支部運営	(170,000)	(170,000)	(0)
總會	110,000	110,000	0
常議員会	40,000	40,000	0
その他運営費	20,000	20,000	0
事務運営	(5,964,000)	(5,933,000)	(31,000)
給与手当	2,106,000	2,076,000	30,000
退職給付引当金繰入	60,000	60,000	0
法定福利厚生費	378,000	367,000	11,000
福利厚生費	30,000	30,000	0

科 目	2022年度予算額	2021年度予算額	前年度比 (増 減)
通勤手当	184,000	184,000	0
旅費・交通費	20,000	20,000	0
通信・回線費	130,000	120,000	10,000
発送・運搬費	25,000	30,000	▲5,000
消耗品費	40,000	40,000	0
印刷費	45,000	45,000	0
会議費	15,000	15,000	0
地代・家賃	2,061,000	2,061,000	0
水道光熱費	660,000	660,000	0
支払手数料	25,000	30,000	▲5,000
賃借料	135,000	145,000	▲10,000
雑費その他	50,000	50,000	0
経常費用計 (C)	45,544,000	9,738,000	35,806,000
当期経常増減額 (A) + (B) - (C)	2,084,000	▲1,002,000	3,086,000
当期一般正味財産増減額	2,084,000	▲1,002,000	3,086,000
一般正味財産期首残高	12,188,000	11,920,000	268,000
一般正味財産期末残高	14,272,000	10,918,000	3,354,000
指定正味財産期末残高	-	-	0
正味財産期末残高	14,272,000	10,918,000	3,354,000

<注記>

2022年度の「一般正味財産期首残高」は、2021年10月末時点における2021年度決算見込数値による

支部特定資産積立と取崩の実績と予定
(2021年度実績 2022年度予定)

	2021年度 特定資産積立・取崩 実績				2022年度 特定資産積立・取崩 予定		
	2021年度 期首残高	2021年度 積立	2021年度 取崩	2021年度 期末残高	2022年度積立	2022年度取崩	2022年度末残高
学術振興基金引当資産	4,380,000円	0円	△90,000円	4,290,000円	0円	90,000円	4,200,000円
支部基金引当資産	2,610,000円	0円	0円	2,610,000円	0円	0円	2,610,000円
災害調査研究基金引当資産	1,900,000円	0円	0円	1,900,000円	0円	0円	1,900,000円
退職給付引当資産	1,200,000円	60,000円	0円	1,260,000円	60,000円	0円	1,320,000円
合計	10,090,000円	60,000円	△90,000円	10,060,000円	60,000円	0円	10,030,000円

【2021年度 積立・取崩(実績)】

学術振興基金引当資産 特定課題研究委員会「北海道の農漁村地域づくり計画の構築に関する研究」のため、90,000円を取り崩し。

退職給付引当資産 2021年度職員退職給付引当金として60,000円を積立。

【2022年度 積立・取崩予定】

学術振興基金引当資産 特定課題研究委員会「北方型住宅オープンケーシング研究委員会」のため、90,000円を取り崩し。

退職給付引当資産 2022年度職員退職給付引当金として60,000円を積立予定。

◆法人正会員

会員社名・団体名

会員社名・団体名

伊藤組土建(株)	戸田建設(株)札幌支店
岩倉建設(株)	(株)巴コーポレーション札幌支店
岩田地崎建設(株)	日鉄セメント(株)
(株)岡田設計	日本データサービス(株)
亀田工業(株)	(株)日本設計札幌支社
鹿島建設(株)北海道支店	日本防水総業(株)
(株)熊谷組北海道支店	(株)三菱地所設計北海道支店
(株)北海道日建設計	(株)アトリエアク
丸彦渡辺建設(株)	(株)中原建築設計事務所
大成建設(株)札幌支店	(株)北方住文化研究所
宮坂建設工業(株)	(株)ドーコン建築都市部
(株)竹中工務店北海道支店	北海道建築設計監理(株)
五洋建設(株) 札幌支店	北海道コンクリート工業(株)
東急建設(株) 札幌支店	清水建設(株)北海道支店
(株)久米設計札幌支社	(株)田中組
(株)サンキット・エーイー	(株)三暁プレコンシステム
(株)コバエンジニア	(株)北海道不二サッシ
(株)土屋ホーム	(株)アトリエブク
(株)田辺構造設計	(一財)北海道建築指導センター
	(株)フィルド

◆賛助会員

会員社名・団体名

北海道電力(株)
 星槎道都大学附属図書館
 北海学園大学附属図書館
 (株)総合資格



一般社団法人 日本建築学会北海道支部

〒060-0004 札幌市中央区北4条西3丁目1
北海道建設会館 6階

TEL.011-219-0702 FAX.011-219-0765

E-mail: aij-hkd@themis.ocn.ne.jp

<http://hokkaido.aij.or.jp/wp/>